米空軍グローバルホークの横田飛行場への一時展開に関するQ&A

Q グローバルホークはどのような航空機ですか。

A

- グローバルホークは、ＩＳＲ（情報収集・警戒監視・偵察）を任務とする高高度滞空型無人偵察機であり、世界各地で多くの任務に従事しています。その特徴は以下のとおりです。
  ・画像等の情報収集を実施
  ・攻撃能力なし
  ・高度５万フィート（約１万５千m）以上で航行
  ・無線通信及び衛星通信により地上から操縦

Q なぜ米軍はグローバルホークを横田飛行場へ一時展開を行うことにしたのですか。

A

- グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点に運用しているグローバルホークについては、夏季における台風等悪天候の影響を回避し、より安定的な運用を確保するため、平成２６（２０１４）年から三沢飛行場へ一時展開を行っています。
- 令和元（２０１９）年は、米軍の運用事情を踏まえ、平成２９（２０１７）年に続き、横田飛行場に一時展開する。これは、現下の安全保障環境を踏まえた地域における運用ニーズと、運用可能な機数等を踏まえ、安定的・効果的なグローバルホークの運用を引き続き、最大限確保し、もって実効的なＩＳＲ（情報収集、警戒監視、偵察）活動を継続的に行う観点から、横田飛行場に一時展開することとした旨米側から説明を受けています。

Q 横田飛行場への一時展開とはどのような内容ですか。

A

- グアムを拠点に運用されているグローバルホーク４機が横田飛行場に一時展開するとともに、運用のための追加要員として、約８０名が同飛行場に一時的に配置される予定です。
- 展開期間は、８月５日頃から秋までの間を予定しています。

Q これまでの我が国への飛来実績はどのようなものですか。

A

- グローバルホークの我が国への飛来は、平成２６、２７及び３０年に三沢飛行場へ、平成２９年に横田飛行場へ一時展開してるほか、平成２３年の東日本大震災におけるトモダチ作戦の参加（福島第１原発撮影）、平成２８年の嘉手納飛行場への飛来、三沢飛行場航空祭への参加、三沢飛行場への飛来（通信機器の更新）、平成２９、３０年の横田基地日米友好祭へ参加しています。

Q

グローバルホークはグアムから横田飛行場へどのようにして移動してくるのですか。

A

- グローバルホークは、グアムから直接飛行し、横田飛行場に着陸する予定です。

Q

グローバルホークは無人機ですが、どういう方法で操縦されるのですか。

A

- 横田飛行場に一時展開したグローバルホークは、離着陸時は同飛行場に設置される設備から、また、離陸後の上昇により十分な高度に至った後は米国にある施設から、それぞれ米空軍のパイロットが操縦します。

Q

グローバルホークを操縦するパイロットはどのような人ですか。

A

- 米空軍の無人機操作の基礎課程を修了した者及び一般的な操縦資格を与えられたパイロットのうち、グローバルホークパイロット候補生となった者は、米空軍の本機種に関する特別訓練を受け、無人機操縦の資格を得ることとなっています。

Q

グローバルホークは安全に運用されるのですか。

A

- 米側からは、米空軍のグローバルホークは、我が国において、２０１１年の震災でのトモダチ作戦のような人道支援・災害救援に従事し、２０１４年以降は、三沢飛行場への一時展開を行うなど、これまでも日本でも運用経験を有しているとともに、これまで世界中で実施されてきた作戦で、安全な運用の実績を有しており、世界の中でも最も安全な無人機の１つであるとの説明を受けています。
- そもそも、グローバルホークには、故障等の不測事態に備えた設計がなされており、例えば、複数の通信回路が組み込まれるなど冗長性が確保されているとともに、実際の運用においては、グローバルホークは、有人の航空機と同じく管制の指示に従って航行する機能等を備えています。
- これらのことから、横田飛行場へのグローバルホークの一時展開について、安全性は十分に確保されていると考えています。

Q

グローバルホークは無人機ですが、他の航空機と衝突を避けるため、どのような対策が取られているのですか。

A

- 我が国におけるグローバルホークの運用に際しては、飛行場の使用や運用の安全性確保の観点から調整を要する事項等について、日米関係当局で協議の上、手続等を定めています。
- グローバルホークは、これらに従い、基本的には通常の航空機が航行しない５万フィート以上の高高度を航行します。
- 離着陸のための上昇降下時など他の航空機と同じ高度帯を飛行する際について、レーダーで捕捉され管制の指示に従って航行することにより他機とは適切に分離されます。加えて、有視界飛行方式で飛行する他の航空機に対して、その時間と場所等の必要な情報が提供されることとなります。

Q

グローバルホークの横田飛行場における騒音規制措置を守り運用されるのですか。

A

- 米側からは、グローバルホークは運用上の必要性に基づき決定されると説明を受けており、運用する際は、横田飛行場における騒音規制措置を可能な限り遵守するとともに、周辺住民に与える影響を最小限に留めよう最大限努力するとしています。

Q

グローバルホークの音はうるさくないのですか。

A

- グローバルホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ周辺地域への騒音の影響は少ない機体と考えられます。
- 東北防衛局が三沢飛行場の滑走路端の西側に設置している航空機騒音自動測定装置の測定結果によれば、平成２６年５月に同飛行場へ飛来した際の騒音値（騒音暴露レベル）は、約７９デシベルです。
- この騒音値は、ＣＶ―２２の横田飛行場配備に関する環境レビューに記述のある同飛行場の配備機種の騒音値（騒音暴露レベル）と比較すれば、Ｃ－１３０及びＵＨ－１より小さく、Ｃ－１２と同程度となっています。

（参考）
横田飛行場の配備機種の騒音値（騒音暴露レベル）
・Ｃ－１３０　約９１デシベル
・ＵＨ－１　約９１デシベル
・Ｃ－１２　約７９デシベル
※地上から約1000フィート（約３００メートル）の高度
防衛省作成パンフレット「ＣＶ―２２オスプレイについて」より抜粋